

東北の国土は私たちが守っていく

東測協活動報告

Tohoku Survey & Planning General inc.Association Activity Report

vol. 9

令和6年1月



宮城県 内沼

CONTENTS

- ・会長挨拶
- ・整備局及び各県事務所長意見交換会
- ・TEC-FORCE 随行報告
- ・国土交通行政関係功労者表彰
- ・災害復旧及び災害防止事業功労者表彰
- ・次世代セミナー
- ・現場研修会報告
- ・講習会報告
- ・補償業務に関する講習会報告
- ・(一社)補償コン東北支部と意見交換会
- ・大学との連携事業報告
- ・労働事故事例報告
- ・採用等アンケート
- ・各委員紹介
- ・編集後記

冬になるとシベリアからたくさんのガンやハクチョウが渡ってきます。
ここはラムサール条約指定湖沼として自然環境が保全されています。

私達の理念

東北に根ざし、地域に責任を持ち、期待される協会



一般社団法人 東北測量設計協会
Tohoku Survey & Planning General Inc.Association



建設DXと健康経営による 持続可能な業界に

一般社団法人 東北測量設計協会

会長 菊池 透

本年、元旦の午後4時10分に震度7を記録する「令和6年能登半島地震」が発生、穏やかなお正月に襲った突然の大災害で、能登半島各地の市町村では数多くの建物倒壊が発生し、5mの津波も観測され沿岸の家屋が被害に、輪島市では大規模な火災により多くの建物が大火に包まれました。この地震により国道をはじめ県道・市町村道が土砂崩れやトンネル内の破砕、道路の隆起等で通行止めとなり、支援や復旧をより困難にしております。

東日本大震災では壊滅的な被害が出ましたが、多くの皆様のご支援で復興に漕ぎ付ける事が出来ました。東北測量設計協会でも多くの会員が、国土交通省のTEC-FORCEチームに同行し被災地の状況を調査いたしました。微力ではありますが我々も復旧・復興に向け支援をして参ります。

この災害により犠牲になられた多くの方々のご冥福をお祈りいたしますと共に、今もなお避難生活を続けている方々にお見舞いを申し上げる次第です。一刻も早い復旧を望むと共に被災された方々の早期の生活の安定が図られます事を願うばかりです。

昨年も6月に和歌山県、静岡県、愛知県で線状降水帯による被害が、7月には九州北部や秋田県で梅雨前線の影響による線状降水帯により甚大な被害が、更に9月には台風13号の影響による豪雨災害で千葉県・茨城県が被害を受けました。特に秋田県では県庁所在地の秋田市で記録的な大雨により、市中心部が冠水するなど都市部では考えられない被害となりました。年々激甚化する災害に対してまだまだ脆弱な東北地方においては国土強靱化を更に進めていかなくてはなりません。

そのような中、昨年6月参院本会議で国土強靱化基本法の改正法が可決、成立しました。5か年加速化対策後も安定的な国土強靱化の推進を求める声を踏まえたもので、「国土強靱化実施中期計画」策定の法定化を主な内容としています。

しかし、国土強靱化・インフラ整備を進めるための担い手の確保は進んでいないのが現状であり、担い手確保はその全産業を通して競争が激化しております。今後少子化が進む事は必然であり担い手不足により、日本の産業体形が崩れ、日本経済全体の問題になる事も予想されます。加えて、現在の建設産業に占める55歳以上の職員は36%、29歳以下は12%であり高齢化も進行しています。

現在の60歳～70歳においては、まだまだ現役で活躍できる若々しいエルダー層も多く、この層の方々さらに活躍して頂く事を進めていかなくてはなりません。

現在では定年延長も進んでおり、更に現役で澆漑と職務にあたって頂くためにも、社員の健康維持が重要になります。また、若年層は少なくはなりますが、これからは多くの産業がDX化を進め、将来に向け少人数であっても生産性を向上させながら、限られた技術者に技術を承継して行かなくてはなりません。

そのような観点から東測協では、DXによる調査・設計を進める事は勿論の事、中高年になっても魅力ある働き方を進め、活力ある地域の守り手になるために健康経営に取り組んで頂きたいと思っております。

東測協では、東北地方整備局並びに出先事務所に対して、地域の守り手の重要性を認識いただき、地域要件（県内本店要件）付の業務の発注をお願いしております。地域コンサルタントの積極的な参加意識に伴い、県内本店要件付事業が増えて参りますので、会員企業の皆様には積極的な参加をお願いいたします。

本年は辰年、昇龍のごとく高みを目指して頑張ってまいりましょう。

令和5年度整備局及び各県事務所長との 意見交換会を開催

総務委員長 鵜沼順之

本年度意見交換会については、7/27東北地方整備局、9/6秋田県（秋田港湾事務所）、10/30岩手県（盛岡管轄事務所）、11/28山形県（山形河川国道事務所）、12/7青森県（青森河川国道事務所）、12/11福島県（小名浜港湾事務所）、12/15宮城県（仙台河川国道事務所）と、東北地方整備局及び東北6県全県の事務所長様と意見交換をさせていただきました。

要望事項としては、

- (1) 担い手確保と育成、働き方改革と予算の確保
- (2) 地域の守り手としての地域コンサルタントの活用促進
- (3) 業務改善に向けた過渡期における建設DX推進
- (4) 品確法の一部改正に基づく地方自治体へのご指導等

の4つのテーマについて取り纏めたものとしております。



「防災・減災・国土強靱化のための5か年加速化対策」が推進され、取り組みを重点的かつ集中的に実施されることに感謝申し上げるとともに、中長期的一般会計予算の確保と着実な執行をお願いいたしました。

また、働き方改革に伴う配慮として特に納期の平準化、繰越の活用、及び、地域の担い手としての地域コンサルタントの受注額割合の一定量の確保のお願い等もしております。

ここ2年、大雨による災害業務の対応があるなか、既往業務の一時中止についても要望いたしました。

整備局及び各事務所長様からは、当方の意見・要望内容につきましては一定のご理解をいただき、全ての要望に対して丁寧にご回答をいただきました。

今後も我々地域コンサルタントの活用についてご理解賜ることが出来るよう進めて参りたいと考えております。



令和5年7月梅雨前線による 大雨に係るTEC-FORCE随同行報告

東測協災害対策本部

令和5年7月15日からの梅雨前線の影響により、秋田県内を中心に記録的な大雨となり、24時間雨量は多いところで300mmを超過し、多くの観測所で観測史上1位を記録したほか、7月の平年値も上回る降水量を記録した。

直轄管理河川や県管理河川においては、氾濫危険水位超過2水系3河川を記録した。また県管理河川においては、堤防決壊や橋梁の崩壊、堤防越水、溢水等による浸水被害が発生した。

東北地方整備局では、甚大な被害が生じた地域へ被災状況調査のためTEC-FORCEを派遣することとなり、災害協定に基づき要請を受けた会員8社が、TEC-FORCEに随行のうえ所管施設等のUAVによる被災調査等を実施した。

【7月18日～19日・21日～23日 秋田県五城目町地内 (株)真宮技術】

五城目町の被災された橋梁4ヶ所を対象にUAVを用いて撮影作業を行なった。7月18日はTEC FORCEに随行し多方向から被災状況写真・動画撮影を行い、19日は特に被害が大きい橋梁の周辺地形も含めた詳細な3次元化が出来るような計測飛行の他、橋梁変位計測用の測定点設置・トータルステーション及びレベルを用いた橋梁の変位計測を行なった。天候が不安定ではあったが風は弱く、無事作業を終了することが出来た。



21日以降の作業目的は道路・河川において全線の被災箇所数抽出ということであるため対象路線全線を垂直動画撮影することとした。作業量は道路10路線(総延長30km)、河川14路線(総延長24km)あり、地形の高低差や送電線の箇所などに注意し、飛行延長に対して飛行可能時間など余力のある飛行計画を作成し、22日は河川、23日は道路の撮影を行なった。

路線長が長いことや道路通行止めなどにより、殆どが目視外飛行となるため飛行前に離発着点や送電線の位置・高さを確認し細心の注意を払い対地高度130mで飛行した。

飛行回数が多いため五城目町役場より充電箇所提供のご協力もいただき、天候にも恵まれ無事作業を終了することが出来た。

【7月20日～24日 秋田県八峰町地内 (株)みちのく計画】

7月14日の豪雨による災害調査のため7月20日から7月24日までの5日間、TEC-FORCEに随行し、UAVによる被災状況の撮影業務を行なった。

20日は午後からの移動と打合せで、随行(実働)は翌日からの4日間の実施となった。

業務内容は道路災害2路線「白神ニツ森線」「水沢ダム線」のほか、河川災害「野田沢川」「夏井沢川」外一河川あり、調査総延は23kmにおよんだ。業務内容は各被災箇所のUAVによる撮影であり、被災箇所ごと上空状況を確認し、飛行可能な範囲での対応となった。東北地方整備局調査班の的確な判断のもとで、事故なく作業も円滑に進み、計画期間内で無事に作業を終了することができた。今後も技術の習得に励むとともに、社会貢献させていただきたい。



【7月24日～27日 秋田県五城目町地内 陸奥テックコンサルタント(株)】

小倉川2箇所、金ヶ沢6箇所、家ノ沢2箇所、小川口川4箇所、大畑沢2箇所、猿田沢3箇所において、TEC-FORCEに随行し、UAVによる被災状況の空撮(静止画)を担当した。

UAV撮影に関しては、飛行前に撮影方向やアングル等の指示を受け、モニターを確認いただきながら被災状況(護岸・堤防崩壊、倒木による流水阻害、法面崩落等)及び河川状況の撮影を行なった。

事前打合せで先遣調査班による被災箇所や被災状況の説明、作業内容の確認等もあり、円滑に調査を遂行することができた。災害発生時に迅速に広範囲の被害状況を確認したり、特定箇所を詳細に確認したりする等、UAVの活用は被害確認や情報収集に大きく貢献すると思われるので、スキルを向上することにより、今後も貢献して参りたい。



【7月24日～26日 秋田県五城目町地内 (株)双葉建設コンサルタント】

五城目町においてTEC-FORCEに随行し、町道20箇所の被災状況調査を行なった。

調査内容は、被災調査補助とUAVによる被災箇所確認及び簡易的なUAV写真点群測量等を行なった。UAV写真点群測量では、取得した点群データを用い、被災箇所の面積の算出、断面図の作成等を行い、本社設計部と連携し災害復旧工法案の検討資料を作成した。

今回随行した被災箇所では、山間部が多くUAVの活用が限定されたが、今後は、新たな技術を積極的に取り入れ迅速かつ円滑に業務を遂行し、社会に貢献して参りたい。



【7月24日～27日 秋田県五城目町地内 (株)エヌティーコンサルタント】

秋田県五城目町保呂瀬線で発生した道路(町道)災害の被災状況を確認する為、TEC-FORCEに同行し調査を行った。現場へは道も狭く落石もある為、徒歩で移動しながらの調査となった。

橋梁災が発生した箇所では、対象が構造物であり真横からの状況把握が必要である事と、立木が多い事から計測にはUAVではなく地上型レーザースキャナーを使用し安全に配慮した上で橋台の根本や洗掘箇所を三次元で計測・確認を行った。最終日は観測した点群データを使用して各種図面作成まで進める事が出来た。



【7月24日～27日 秋田県五城目町地内 (株)アースデザインコンサルタンツ】

7月14日からの記録的な大雨による災害調査のため、7月24日から7月27日までの4日間、TEC-FORCEに随行し、秋田県南秋田郡五城目町地内における河川被災状況の確認を行なった。事前協議での作業内容の確認を行い、UAVによる写真撮影及びレーザー計測による三次元点群を取得しての簡易断面作成等作業を行い、無事、作業完了出来た。梅雨が明け暑さが厳しい中での作業だったが、今後の活動に活かせる貴重な経験となった。



【7月24日～27日 秋田県八峰町地内 (株)東建工営】

7月24日～27日に秋田県山本郡八峰町の白神ニツ森線5箇所、水沢ダム線1箇所、合計6箇所をTEC-FORCEに随行し、UAVによる緊急調査を行なった。

24日には、八峰町役場で打合せを行い、調査は25日からの3日間行なった。

対象区域までの道路が土砂崩れや寸断されていた為、徒歩で移動しながら被災状況の撮影となった。

UAV撮影に関しては、上空からの俯瞰写真や上空から撮影が困難な場所では、周辺の立木等に注意し空撮を行なった。また、現場まで数キロ程度歩くことや、周辺には立木や飛行可能箇所が狭く大型ドローンではなく、軽量の小回りが利く小型ドローンを使用した。

人では撮影できない高さ、場所から被災状況を分かりやすく撮影することを心掛け、離着陸の場所も含め安全管理に注意を払いながら作業を行なった。

被災箇所の中には、近寄ることさえ厳しい箇所はドローンの良さ生かし、安全な箇所から飛行し被災箇所の撮影を行ない、全箇所を終えて、撮影したデータを納品し無事終了することができた。



【7月24日～27日 秋田県八峰町地内 東北エンジニアリング(株)】

7月14日からの豪雨により、秋田県で大きな被害が出たことを受けて、東北地方整備局は、TEC-FORCEを派遣した。青森河川国道事務所から秋田県八峰町に入った派遣隊のうち河川被害の担当チームに、弊社社員も同行して調査に協力した。7月24日～27日の4日間、八峰町峰浜石川地内の夏井沢川において、河岸洗掘や堤防決壊が発生した計15箇所にて、被災箇所計測の補助やUAVを用いた被災状況の撮影を行なった。近年は災害が激甚化・頻発化しており、これからも同様の要請が見込まれることから、今後もこの経験を活かして、積極的に協力したい。



国土交通行政関係功労者（災害対策功労者）表彰

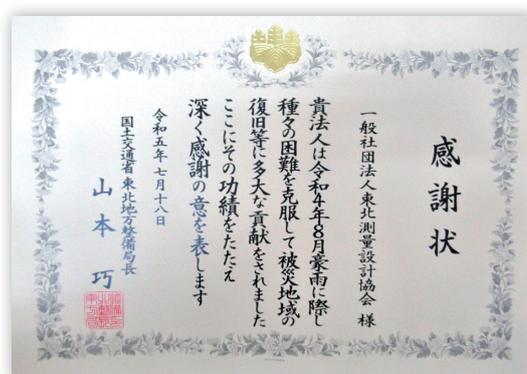
令和5年7月18日、東北地方整備局は、建設事業関係功労者、優良業務施行者、災害対策功労者など国土交通行政関係功労者表彰を行いました。

（一社）東北測量設計協会は、「令和4年8月の大雨に関して災害協定に基づく要請に応じ被災状況調査等を実施する業者の推薦を行い、被災した山形県内及び青森県内の被災状況調査を支援し、TEC-FORCEの後方支援等を行うなど、早期復旧に貢献した。」ということで、災害対策功労者表彰を受けました。

また、実際にTEC-FORCEに同行した6社の会員につきましても、災害対策功労者表彰を受けました。

【功労者】

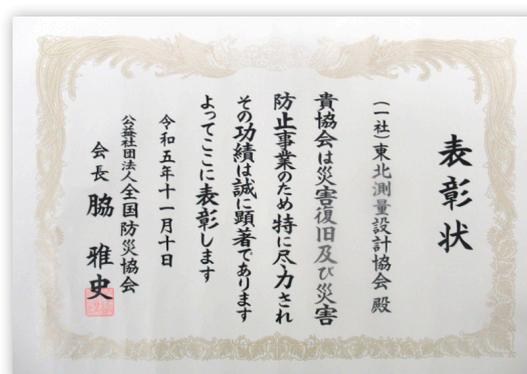
- ・（一社）東北測量設計協会
- ・（株）双葉建設コンサルタント
- ・（株）田村測量設計事務所
- ・（株）みちのく計画
- ・（株）出羽測量設計
- ・（株）キタコン
- ・エイコウコンサルタンツ(株)



令和5年度 災害復旧及び災害防止事業功労者表彰を受賞

（公社）全国防災協会（会長：脇 雅史）は、令和5年11月10日、「令和5年度災害復旧促進全国大会」を開催し、災害復旧促進に関する決議を行ったほか、災害復旧及び災害防止事業功労者への表彰を行いました。

当協会は、令和4年度8月大雨の際のTEC-FORCE随同行等の災害対策功労として功労者表彰を受賞、受賞式は砂防会館別館（東京都）で行われ、菊池会長が出席いたしました。



「令和5年度次世代セミナー」を開催

企画委員会

令和5年10月30日、仙台市パレスへいあんににおいて、4年ぶりに「次世代セミナー」が開催されました。

講師に(株)モチベーションジャパン代表取締役松岡保昌様をお招きし、強い会社になるための人と組織の問題について、人事の仕組みや企業文化のつくり方、やる気を高めるための意識変革、会議のやり方など、自社のセルフチェックを行いながらの講義となりました。

後半はワークショップ形式で自社の目標設定や情報交換を行い、新しい考えや気づきを得られる有意義なセミナーとなりました。

演目	「強い会社にするための人と組織の問題について」
講師	(株)モチベーションジャパン 代表取締役 松岡 保昌様
受講者	東北6県会員企業より17名(企画委員会5名)



セミナー風景



参加者アンケート

questionnaire

受講満足度: 100%満足

受講者の声

- 他にも講習に参加してきたが、予備知識として知っていた事を納得できる様に固めてくれる内容であった。新たに意識したい事も知ることができ、いいアドバイスを受けた。
- 管理職の視点で考えることで今後の仕事へ意欲が向上した。
- 現在抱えている会社の問題に対して有効的な解決案を見出せた。
- グループワークで他社の声が聞けたのが良かった。
- グループワークの時間が短く、意見が出きらなかった。
- 経営視点で考えられる貴重な機会であった。

次回参加について

- 是非参加したい 8人
- タイミングが合えば参加したい 6人
- セミナーの内容では参加したい 2人
- どちらとも言えない 1人
- 参加したくない 0人

参加者のネットワークについて

- ぜひ継続したい 16人
- どちらとも言えない 1人
- 継続したくない 0人

令和5年度現場研修会の報告

技術委員長 海 藤 剛

令和5年度現場研修会は9月21日、成瀬ダム工事現場を視察しました。

最初に、原石山展望台において、原石山JVの方から原石山工事の先進技術等の説明を頂きました。その後ダム現場内を移動、右岸天端展望台において成瀬ダム工事事務所職員から成瀬ダムCSG打設の流れ、現在の工事進捗状況等について説明を頂きました。



成瀬ダムの現場では、建設機械が無人で自律的にダム提体を築造する自動化施工に加え、令和5年7月からベルトコンベアが稼働、自動化施工を本格化とあわせて提体CSG打設の高度化・安定化を図っています。



累計提体打設実績 令和5年8月末349万 m^3 (約72%)
令和5年度打設予定184万 m^3 (約90%)



CSG打設の流れ

- ①CSG運搬
(ベルトコンベア、SP-TOM)
- ②CSG運搬 (ダンプトラック)
- ③CSG敷均し (1層25cmでブルドーザー敷均し、3回繰り返し75cmに)
- ④CSG締固め (転圧)
この工程の繰り返し



成瀬ダムは雄物川水系成瀬川に建設される多目的ダムとして、平成9年4月に事業着手、令和8年度完成に向け工事を進めております。

当該工事は、ベルトコンベアを稼働させ、自動化施工を稼働することによりコンクリート系ダム工事における月間打設量の国内最高記録を樹立するなど、国内最大級の大規模CSGダムの高速施工を実現しています。

当日は雨模様のため、CSG打設が行われていませんでしたが、VTR映像等で説明頂きました。

コロナ禍の影響などもあり、このような研修会も、昨年度からようやく開催できる状況となり、例年並みの活動を再開したところでございます。

今後も経営者研修会(総務委員会)及び現場研修会(技術委員会)と、タイムリーな研修会を企画し、会員の皆様と交流を深めて参りたいと存じます。

令和5年度講習会報告

技術委員長 海 藤 剛

技術委員会では、当協会の肝である「技術力の向上」のための講習会や現場研修会の実施を行い、会員の資質向上・資格取得へ繋げる事業展開を行っております。

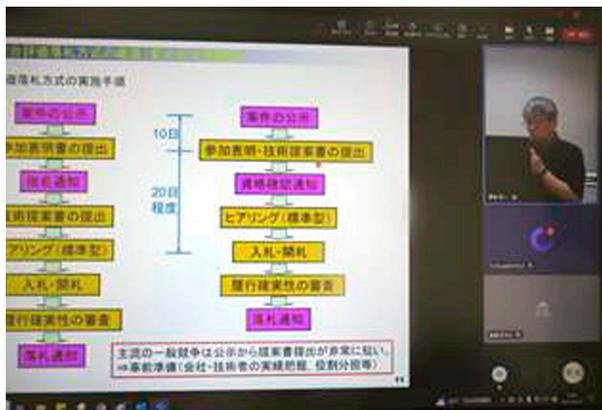
令和5年度は関係機関の方々のご協力により下記講習会等を行いました。

平成30年度からスタートした東北6県で開催される東北土木技術人材育成協議会では、5年目を迎え、「ICT・UAV基礎技術講習会」（9月～12月）において、「3次元測量の概要と留意点」についての講義を担当しております。

当協会が主催する「総合評価及び品質向上に関する講習会」及び「技術士試験基礎対策講習会」については、講師のご支援を受け、リモート講習会として開催し、多数の会員の皆様から受講頂きました。

● 総合評価及び品質向上に関する講習会

- ・ 令和5年9月26日（リモート講習）
24社76名参加
- ・ 講義内容及び講師（㈱復建技術コンサルタント）



1) 総合評価落札方式における評価ポイントについて

営業部 営業情報課長 佐藤 雅士 氏

2) 設計上の留意点

～設計のミス事例と配慮するポイント～

技術管理部 副部長 平野 至史 氏

3) 斜面崩壊による道路災害復旧事業の対応例

調査防災部技術3課長 大澤 宏明 氏

● インフラDX講習会

・ 令和5年10月24日 26社44名

・ 講義内容及び講師

1) 東北地方整備局におけるインフラDX概論

東北地方整備局建設情報・

施工高度化技術調整官 三浦 義昭 氏

2) R4みちのくインフラDX奨励賞受賞者の

取組事例紹介

～富范薄市線橋梁補修（津軽大橋）

設計業務委託～

㈱キタコン 第2技術部 佐藤 玲央 氏

太田 祐貴 氏



3) 7月大雨災害に係るTEC-FORCE同行

(ドローン班) の報告

(株)真宮技術 技術部次長 細田 薫 氏

4) 移動体計測の活用について

(株)ダイワ技術サービス

技術第一部ICT推進課長 佐藤 智行 氏

福島県会場

(株)東コンサルタント 森田 孝広 氏

仙台市会場

(株)ダイワ技術サービス 佐藤 智行 氏

秋田県会場 (中止)

●技術士試験基礎対策講習会

・令和5年11月22日

・リモート講習 15社23名参加

・講義内容及び講師

技術士試験受験対策について

(株)5Doors' 代表取締役 堀 与志男 氏



●ICT・UAV基礎技術講習会

(東北土木技術人材育成協議会)

・令和5年10月11日~12月12日

・講師：青森県会場

(株)キタコン 建部 孝仁 氏

岩手県会場

(株)アースデザインコンサルタンツ

津嶋 洋輔 氏

小野寺應治 氏

宮城県会場

(株)サトー技建 岩本 春男 氏

山形県会場

(株)復建技術コンサルタント 市川 健 氏

おわりに

コロナ禍以降、2つの講習会をリモート講習会に変更し開催しております。会場までの移動もなく職場で気軽に受講できるという事で、受講者の皆様からは好評を得るほか、多数の会員に受講いただきました。

また、DX推進による生産性向上や魅力ある建設現場を目指して、東北地方整備局等から講師を招き、インフラDX講習会を開催しインフラDX概論等について学びました。

今後も会員のために有意義な講習会を企画していく所存ですので、皆様のご支援、ご協力の程宜しくお願いいたします。

令和5年度補償業務に関する講習会報告

補償業務委員長 阿部 忠宏

●補償実務講習会

東北地方整備局管内用地業務について、起業者のよきパートナーとして公共事業を円滑に進めるための知識の習得並びに技術の研鑽を目的とし開催しました。

東北地方整備局用地部用地企画課長補佐岩崎勇司様に「用地業務の現状と展望」について講話を頂いた後に、土地評価を主とした「土地評価の理論について」と「土地評価の実務について」の研修を行いました。

また、岩崎補佐様には、講話のあと補償業務委員会に所属する会員と働き方改革に伴う配慮、総合評価方式等について情報交換を行いました。

- ・令和5年5月30日 13社20名参加
- ・講義内容及び講師
- 1) 講話 東北地方整備局用地部
用地企画課長補佐 岩崎 勇司 氏
- 2) 土地評価の理論
(株)吉田測量設計
総合補償士 鈴木 龍幸 氏
- 3) 土地評価の実務
(株)東日本エンジニアリング
総合補償士 藤原貴美夫 氏

●補償業務管理士講習会

公共用地取得においては補償業務に携わるうえで補償業務管理士の資格が必要です。この資格は、土地調査、土地評価、物件、機械工作物、営業特殊補償、事業損失、補償関連、総合補償と8

部門で構成されています。各部門の資格を取得するための第一歩として共通試験があり、この共通科目試験の対策として補償業務管理士講習会を実施しております。

毎年公表される共通試験の出題傾向に合わせて、各講師の方々が想定の問題を作成して解説を行いこの講習会を受講された方々が一人でも多く合格し、補償業務従事者の拡大を図る事を目的とした講習会となっております。

- ・令和5年8月29日～30日 22社38名参加
- ・講義内容及び講師
- 1) 用地事務概論及び損失補償の法理と補償制度
(株)桑折コンサルタント
補償業務管理士 岩淵 浩一 氏
- 2) 一般補償基準
柴田工事調査(株)
補償業務管理士 杉井 孝次 氏
- 3) 不動産に関する行政法規
エイト技術(株)
補償業務管理士 佐々木政明 氏
- 4) 用地調査等共通仕様書等
(株)ウヌマ地域総研
補償業務管理士 大村 次雄 氏
- 5) 土地収用法
東邦技術(株)
補償業務管理士 佐々木 隆 氏
- 6) 公共補償基準
(株)田村測量設計事務所
補償業務管理士 鈴木 政志 氏



(一社) 補償コン東北支部と意見交換会開催

補償業務委員長 阿部 忠宏

当協会実施の研修・講習会について、補償コン東北支部との調整を図る事を目的とし、令和5年9月29日ハーネル仙台に於いて補償コン東北支部長ほか5名、東測協菊池会長ほか5名の出席のもと令和5年度意見交換会が開催されました。

議題として、東測協講習会、補償コン東北支部の事業等についての報告があり、意見交換が行われました。昨年度補償業務管理士検定試験合格状況において、特に東北からの受講者で土地評価部門の合格率が高かったこと等の報告があり、当協会主催の講習会の効果等について議論となりました。

コロナ禍の影響で4年ぶりの開催となりましたが、今後も有意義な意見交換を行っていききたいと思います。



大学との連携事業報告

企画委員長 石塚 三雄

東北工業大学「空間測量Ⅱ講義」(R5.12.7.21)

都市マネジメント学科3年生52名が受講。音声入りPPT資料の作成をし、動画視聴での授業を実施。SLAM・UAV・MMSの活用事例、作業手順、将来像について解説。あわせて、土木工学を学ぶ学生の中で、地域の建設コンサルタントへの認識が乏しい現状を踏まえ、その魅力とやりがいについて説明しております。



リクルートアンケート

講義に合わせ、就職活動に関するアンケートを実施しました。

卒業後の進路について、約7割の学生が概ね決まっていると回答がありました。

志望する企業としては建設業、メーカー(土木・建設系)が多く、測量・土木設計関連を希望する学生の割合が低い。志望予定の企業規模は、大手企業に対し地元企業への志望が若干上回る結果と、例年と同様な傾向にあります。

就活で活用しているツールとしては、殆どの学生がマイナビ等の就活サイト及び学内就職支援機構を利用していると回答しております。

令和4年度 労働事故事例報告

技術委員会

毎年会員の皆様には労働事故に関するアンケート調査を実施しており、今年度は92%の回答を頂きました。今回の調査においても死亡事故の発生はなく、日頃からの労働災害防止、意識徹底の結果によるものと思われます。しかし、労働災害事故件数の負傷は前年度より減少しましたが、物損は前年度より増加となり、今後も会員皆様の安全管理の徹底と、一層の労働災害防止活動の継続、取組みをお願いいたします。

(負傷・物損事故件数 / R3=22件・R4=22件)

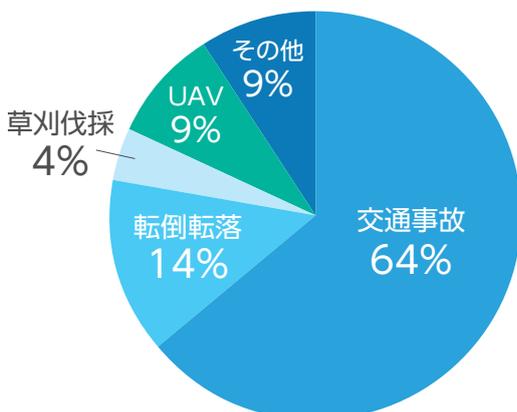
【負傷事故 / R3=9件・R4=5件】

件数は昨年より大きく減少しました。特にここ数年増加傾向にあった現場作業中の蜂などの事故はゼロ件となりました。これは蜂の活動時期は黒い服を避け、蜂に遭遇したら刺激しないようにするなど、注意喚起と啓発防止活動の成果と思えます。次に転倒転落の負傷件数は昨年より増加となりました。つまり、滑り、伐採中などの軽微な事故で、作業前の注意喚起と啓発防止活動が必要です。

【物損事故 / R3=13件・R4=17件】

例年、物損事故の大半は交通事故となっており、現場、社屋敷地内での事故が目立ちました。外、安全確認不足や運転技能に対する過信が要因となっています。今後はUAVでの作業が増加し、操縦ミス、特に慣れによる操縦過信での物損事故が増加すると思われます。より一層の注意喚起と啓発防止が必要です。

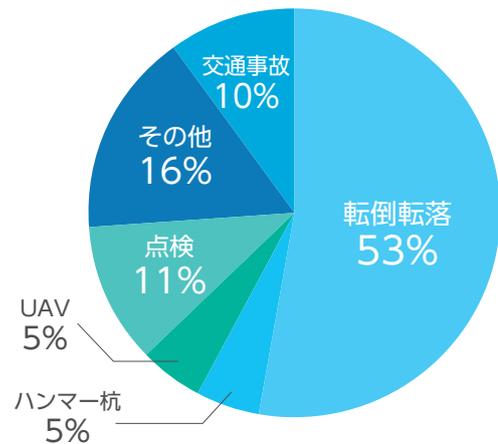
【負傷・物損事故合計の構成割合】



【ヒヤリハット / R3=34件・R4=19件】

ヒヤリハットとは事故に至らないものの、事故に直結すべき一歩手前の事例、出来事の「発見」で、例として転倒はしたが、負傷、物損事故には至らなかった事などです。今年度は19件の報告があり、内容としては前年に続き転倒転落につながる事例が半数を占め、足元の悪い中での事例が多くみられました。また近年夏の暑さが厳しく、軽い熱中症状の報告もあり、作業中の計画的休息と水分補給が必要です。各事例共に事故には至りませんでした。災害事故に直結してもおかしくはない出来事が多く、些細なヒヤリハットを見逃さず、しっかり防止する事が大切です。

【ヒヤリハットの構成割合】



【終わりに / 労働災害防止のために】

従業員の安全と健康の確保は事業者の責務です。災害防止対策の一例として、

- 労働安全衛生法の順守（危険防止の措置）
- 自主的な安全衛生活動（ヒヤリハット）
- リスクアセスメントに基づく取り組み

これらが災害対策の一例としてあります。

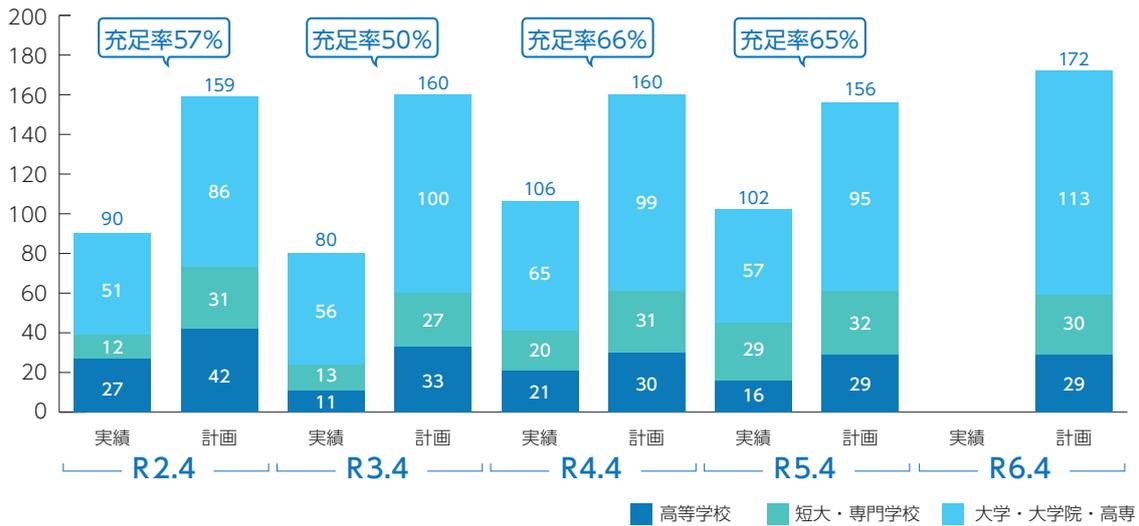
日頃から労働災害事故が起らないよう、災害防止対策に努めておくことが必要であり最も重要です。今後も会員相互の意識の共有化に対して前向きに考え、軽微な事例でも大きな事故を未然に防ぐため、抑制効果手段として情報を提供していきたいと思えます。



令和5年度 採用等アンケート

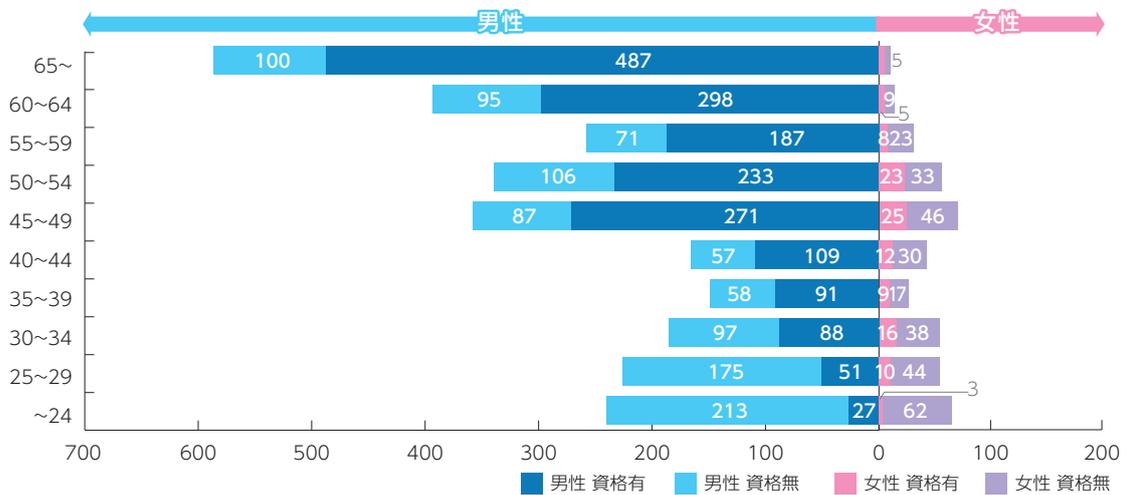
| questionnaire |

学歴別新規採用者の状況



技術系社員の年齢構成

【平均年齢：45歳】



新規採用について、採用ニーズは高いものの、実際に採用できている人数はなかなか増えていない状況ですが、令和4年度は充足率66%、令和5年度は65%と比較的高くなってきております。

技術系社員の年齢構成では60歳以上に資格者が多く、担い手の確保、若手・中堅技術者の育成が急務となっております。

会員の皆様には、お忙しい中アンケートにご協力いただき誠に有難うございました。

アンケート結果については担い手確保・育成の観点から現状を把握し、要望に反映して参ります。

企画委員長 石塚 三雄

本年もよろしくお願ひいたします

会 長	菊 池 透	(株)アースデザインコンサルタンツ
副 会 長	菅 原 稔 郎	(株)復建技術コンサルタント
副 会 長	田 村 道 雄	(株)田村測量設計事務所
副 会 長	伊 藤 清 郷	陸奥テックコンサルタント(株)
総務委員長	鷓 沼 順 之	(株)ウヌマ地域総研
企画委員長	石 塚 三 雄	東 邦 技 術 (株)
技術委員長	海 藤 剛	(株)双葉建設コンサルタント
補償業務委員長	阿 部 忠 宏	(株)東日本エンジニアリング
理 事	山 内 一 晃	エイコウコンサルタンツ(株)
理 事	森 井 淳 司	(株)東 建 工 営
理 事	間 山 昭	(株)み ち の く 計 画
理 事	鈴 木 誠 弥	(株)東 開 技 術 建
理 事	加 藤 一 也	(株)サ ト 一 技 建
監 事	高 橋 郁	(株)三 協 技 術
監 事	湯 澤 洋 一 郎	新 和 設 計 (株)



編 集 後 記

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」で被害に遭われました方々へ、心よりお見舞い申し上げます。東日本大震災の復旧・復興の際には北陸地方の皆様からも多くのお力添えを頂いたご恩をオール東北でお返しをするとさだと強く感じております。

改めまして、この度の「東測協活動報告Vol.9」を発行するにあたり、ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

特定業種における働き方改革関連法の猶予期間が3月末で終了し、あらゆる業種において経営と雇用の関係性を再構築する事が必要な社会環境となり、我々業界も労働環境の改善・生産性の向上・次世代技術者の育成において今まで以上に重要な一年が始まります。

企画委員会は本年も、会員の皆様に有意義な情報を発信できるよう尽力して参りますので、今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

企画委員 吉田 直人



お問合せは

一般社団法人 東北測量設計協会

〒980-0014

宮城県仙台市青葉区本町3丁目6-17 (勾当台本町ビル6F)

TEL.022-263-0922 FAX.022-263-1744

E-mail info@tospa.org

公式HP <https://tospa.org/>



Access Map



令和6年1月発行